

災害看護

派遣先の状況とニーズを素早く把握し
医療と保健の視点からアプローチを行う。

被災者の心情を配慮し ニーズを丁寧に扱う。

自治医科大学附属さいたま医療センターでは、昨年3月11日の東日本大震災発生直後から「埼玉DMAT」や「さいたま医療センター災害派遣医療団」として、医師や看護師、薬剤師等を被災地に派遣してきた。同センター救急部の小島光希さんは、DMAT隊員以外の病院看護師に初めて募集がかかった「さいたま医療センター災害派遣医療団」第三団に応募。4月2～10日、他のメンバーとともに岩手県大船渡市へ向かった。

派遣先は、多い時で約150名ほどの避難生活を送っていた体育館。医療団はその一角に診療場所を構え、診療を行った。

集団生活を強いられる避難所では、「みんなもつらい状況だから」と、真会が悪くても我慢してしまう人も多いため、自ら受診する患者さんは1日に10人ほどだったという。そこで小島さんたちは声を掛けてまわること。「ずかずか入り込むのではなく「調子はどうですか」と声を掛け、話して下さることを聞き、寄り添うことを心掛けました」。実際に声を掛けてみると、2～3日前から真会が悪かったという人、涙が流されてしまっ



災害看護においては、現地の医療観、価値観からの理解とチームワークも必要となる

めていない人など、医療ニーズもすぐうことができたという。

派遣された直後は、被災して多くを失い精神的ダメージを受けた人たちに、何もできないもどかしさを感じた小島さんだったが、徐々に「外から来た人間だからこそできることがある」と感じられるようになった。「遊んでいる人同士では、お互いを気遣って話さずいづらひことも、私たちに話して楽になったという声を聞きました」と振り返る。

環境整備や 保健的アプローチも重要。

災害看護というと、即座にトリアージや応急処置を思い浮かべるかもしれない。しかしそれだけが災害看護ではない。急性期を過ぎたからの派遣では、看護師の活動は医療的介入より保健・予防的要素の力が大きい場合もある。

小島さんたちの場合も大部分は保健・予防活動だったという。「古い体育館だったので、転ばないように環境を整えたり、ホコリがすごかったので消毒されている方と一緒に清掃をしたり、手指衛生を広めるなどの保健・予防的な活動で、現地の保健師と一緒に行っていました」。

とはいえ、災害の特性により看護師の関わり方も変わってくるだろう。今後いつ、どのような災害が発生するか分からない。小島さんは、救急部での日々の看護の中で、これまで以上に迅速な対応ができるよう心掛けるとともに、必要最低限の応急処置の技術を身につけたいという。さらに、DMAT研修終了はもちろん、心のケアの勉強もしていきたいと話している。



小島 光希さん

- 2008年4月入職
- 救急部勤務
- 自治医科大学卒

心に残るひと言

震災をきっかけに精神疾患が再発してしまわれた方もいました。あの方のお話を聞いた後で、「分かってもらえてよかった」と言ってくれたのが印象的です。足もがつかない状況の中で、大変さを分かってもらえずにいたところ、外部から来た私たちにだからこそ言えたそうです。来た意味があったと感じました。

SCHEDULE

時間	内容
9:30	派遣所へ出勤。環境整備、診療開始。ラウンド
12:00	昼休み
13:00	診療開始、ラウンド
17:00	市役所で高齢者の依頼者のミーティング
18:00	終業

この看護に注目!

へき地医療や災害時の医療にも対応する医療者を養成する自治医科大学の附属医療センターであることから、災害時には積極的に被災地への医療チームの派遣を行っている。DMAT隊員の看護師による急性期の対応はもちろん、急性期以降も避難所等での診療介助、保健・予防活動を行う。派遣団の看護所としては、より多くの患者や外傷に対応できる能力はもちろん、現地チームとの協働がスムーズにできる経験性、メンタルケアの知識も持ち合わせていることが求められる。

主要疾患

災害の種類、災害からの経過日数により異なる

心臓血管外科

安心して退院が迎えられるように
患者さんの心に寄り添い、援助する。

患者さんの不安や思いを 受けとめ、分かち合う看護。

「手術前日はもちろん、病棟を出る時やCCUから病棟へ戻って来られた時など、できるだけ話しやすい雰囲気づくりや声かけをしています」と語る君津中央病院の田中満知子さんは、入職以来、心臓血管外科病棟で勤務している。狭心症、心腔梗塞、弁膜症などの患者さんを多く受け入れ、その手術は生命に直結することも多く、患者さんの精神的なストレスも少なくない。手術を心身共に安定した状態で迎えられるように、患者さんの不安や思いを受けとめ、術後、退院後のことも視野に入れながら関わるのが大切になる。術後には、患者さんの異常に早く気づき、変化を見逃さない観察力も欠かせない。田中さんは、同じ病棟の先輩たちの働きを見て勉強することも多いという。「先輩方の小さな変化を見逃さず、その情報をつないで次の予測をする力は見習うばかりです」。

病棟では毎朝毎夕、医師の回診が行われ、患者さんの状態や思いを十分に把握しながら治療が進むため、患者さんも安心だ。患者さんと先生をつなぐのも看護師の役割だと思っています。先生に聞きたいことがあれば、



毎朝の回診・毎夜は、早・夜間に向けて医師との情報共有は欠かせない

何でも話せる看護師でいたい」と言うように、田中さんは、患者さんの不安や感情を分かち合える看護を心がけている。

手術に付き添ったご家族にも安心してもらえるように、その後のちょっとした変化や回復状態を丁寧に説明することで、ご家族にも回復を実感してもらうなど、関係した人々への配慮も忘れられない。

笑顔で迎えられる 退院の日を願って。

同院には、病棟の看護師の他にソーシャルワーカーや訪問看護師を交えた「退院支援チーム」があり、週に1度のカンファレンスを設けている。退院後に必要ならば、継続的に訪問看護できる体制を整えたり、社会資源の活用も考えながら、1日も早い社会復帰を支援していく。「退院された後も元気に過ごしていってほしいことを心から祈っています」と、患者さんの退院後にも思いを馳せる田中さん。退院の日の患者さんの笑顔が一番嬉しいという。大変な手術や治療を共に乗り越えた同士のような信頼関係が築かれ、笑顔で送り出すの一環があるからこそ、日々の看護にも力が入るのだから。

SCHEDULE

8:30	申し送り	15:30	リーダーに申し送り
9:10	心臓血管外科カンファレンス 回診、ケア・検査・処置	16:00	看護管理課へ部長・リーダーから申し送り
12:00	昼食(スタッフは11:30～13:30の間で昼食)	17:00	夕回診
13:30	入院受け入れ		
14:00	検査・処置・記録		

HOSPITAL DATA

君津中央病院

東京湾アクアラインの橋脚に、水更津市にある君津中央病院は、内房地域の中枢基幹病院として、地域医療の確保と医療水準の向上を図っている。千葉県の災害拠点病院であり、君津地域の3次救急病院の役割も担い、2009年1月から院内で24時間となるドクターヘリが導入された。内科・外科全般を網羅した全34科を擁し、地域の重要な医療拠点となっている。



〒292-8535 千葉県水更津市桜井1010
担当/看護部確保対策室
TEL(0438) 36-1071(代)
http://www.hospital.kisarazu.chiba.jp



田中 満知子さん

- 2007年4月入職
- 心臓血管科(循環器内科、心臓血管外科、呼吸器外科) 病棟勤務
- 君津中央病院附属看護専門学校卒

心に残るひと言

術前・術後に患者さんとお話することができ、退院日に見る患者さんの笑顔には、たくさん元気をいただくことが多いです。そんな中で、ある40代の患者さんから「多くの看護師さんがいる中で、田中さんに会えたことに感謝しています」との言葉をいただきました。何かでくじけそうになった時に思い出することがあり、私の心の支えになっています。

この看護に注目!

同じ病棟内に循環器内科もあり、連携して治療・処置を行うため、患者さんの経過を通った継続治療・看護が提供できる。手術準備を軽減するため、CABGでは可能な限り人工心臓を用いず心臓下で行っている。高齢者の患者さんが多く、術後は合併症を予防しながらリハビリを行い、日常生活の復帰を促している。術前・術後と患者さんと関わるため手術に対する精神的なケアや退院後を見届けた早い社会復帰への援助が必要となる。

主要疾患

狭心症、心腔梗塞、弁膜症、先天性心疾患、胸腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、下肢静脈瘤、透析科 など

HOSPITAL DATA

掲載病院情報106ページ

自治医科大学附属さいたま医療センター

地域医療への貢献と、へき地の医療に従事する医師の育成および生涯教育を目的に、平成元年12月に開設された。地域の基幹病院としての役割を果たす。平成20年、地域の強い要望に応えるため新築(新築)を推進。増床し、産婦人科、小児科(NICU)を開設。平成22年に地域周産期母子医療センターに認定されている。



〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼1-4-17
担当/看護部 橋
TEL(048) 647-2114(内線2297)
http://www.jichi.ac.jp/center/
kangobu-jmu@comiya.jichi.ac.jp